

日南町民大学における講話から(「日南の森林から地球を動かす」)

中山間地域では、人口流出により過疎・高齢・少子化による、社会構造のひずみが出ている。廃屋・空き家が地域の迷惑施設になってしまうなど、土地家屋などの資産についてもその状況がみられてきている。山林は平成39年の木材自由化以降、厳しい環境にあり、外圧に弱い木材産業となり、注目度が低落している。

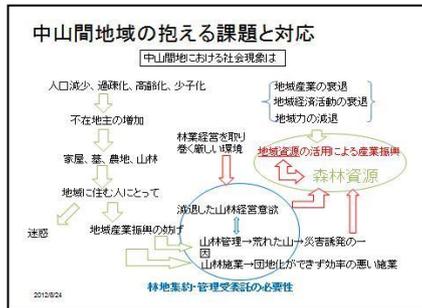
また、林地境界不明、相続手続きの停滞、山林を手放したい意向に対する受け皿不在などの課題、森林資源持続のための皆伐林の一層の増加対策が手つかず、など多くの課題がある。

しかし、日南町では平成17年の地域再生計画承認によって森林を取り巻く環境が大いに変わってきた。

オロチのLVL工場を受け皿とした間伐作業量の拡大、それにとまなう、高性能林業機械の導入と若い林業作業従事者の雇用増加など、目ざましい変化が出てきている。

昨年度の木材生産量は9万立方メートルを超え、500万立方メートルある人工林蓄積量の年間成長量3%を山から出すシステムが出来つつある。

森林資源がこの地域に大きな変化を生み出していることは全国からも注目されてきている。



日南町内の森林資源に着目

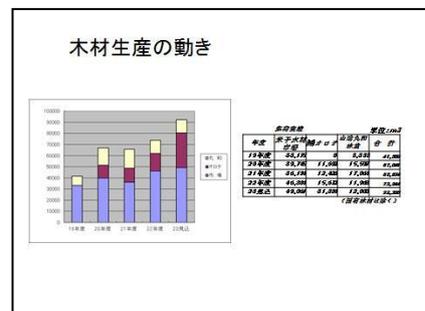
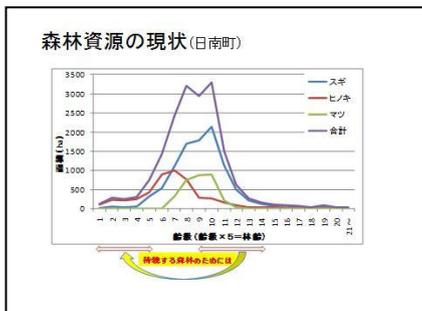
森林面積は30,231haで総面積の69%

私有林面積は28,920ha

人工林の面積は18,061ha
人工林率63%

立木の蓄積材積量は、51.5万m³、年間成長量は2万m³

人工林の9割を占める間伐林(4~7割級)の増量、保育帯が適正に実施されているのが現状



2012夏休み子ども教室(ミニチュアツリーハウス教室)

平成24年7月30日(月)日南町役場 防災会議室において教育委員会主催「2012夏休み子ども教室 ミニチュアツリーハウスづくり」をおこないました。

参加者は町内1年生から4年生までの8名。NPOフォレストアカデミージャパンが用意した材料と、個人が持ち寄った木の実などを使って思い思いに工夫を凝らした作品を作りました。

日々の生活ではあまり触れることのない苔や小枝、木の皮・・・「どうやって切るだ??」

最初はスタッフに頼っていた子どもたちも、自分でのこぎりを使って切ることができるようになりました。難しい作業は協力しながら進めていく姿も見受けられ、子どもたちにとって良い体験になったのではないのでしょうか。

終了後、迎えに来られた家族に笑顔で作品を見せている子どもたちの笑顔が印象的でした。

